

【第 37 回演奏会実施に向けた指針】(2020 年 9 月 27 日版)

芥川也寸志メモリアル
オーケストラ・ニッポニカ

はじめに

2021 年 3 月 21 日に、延期をしていた第 37 回演奏会を開催することに決定しました。

新型コロナウイルスの感染状況は未だ予断を許しません。また、感染の可能性を無くすことは出来ません。従って、演奏会の開催を実現するために、以下の考え方を基に準備を行うことが必要であると考えました。

【オーケストラの基本指針】

- (1) 団体として取るべき対策指針を定め、実施する。
- (2) 空間的リスクを緩和する。(出来だけ広く、換気機能があるリハーサル会場)
- (3) 時間的リスクを緩和する。(必要最小限の時間、期間によるリハーサル)
- (4) 出演者による基本指針の理解と遵守

掲記を踏まえて、「オーケストラ・ニッポニカ 第 37 回演奏会実施に向けた指針」を定めました。今後、出来得る限りの対策と、参加者の協力の下に、演奏会の実現に向けて着実に推進したいと考えます。一方で、「緊急事態宣言」の発令、あるいは演奏会の開催にリスクがあると判断した場合には、開催を中止します。

資料のまとめに当たっては、下記のガイドラインを主に参考として、松木英作氏、浅野ありさ氏、両医師の監修を受けています。

なお、この指針は、政府・東京都などのガイドラインの発表内容に準じ、必要に応じて適宜改訂を行います。

参考資料:『劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン改定版』
公益社団法人 全国公立文化施設協会 令和 2 年 9 月 18 日発行

『東京都交響楽団（都響）演奏会再開への行程表と指針』
公益財団法人 東京都交響楽団 2020 年 6 月 25 日発行

『クラシック音楽公演における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン』
クラシック音楽公演運営推進協議会 2020 年 6 月 11 日策定

『新型コロナウイルス感染拡大予防対策のお願い』
紀尾井ホール 2020 年 7 月 1 日付

I. 行動の原則（リハーサル参加の前に、各自心得て頂くこと）

- (1) 日常、感染防止の心得を怠らない。
- (2) 手洗い、または手指の消毒を心がけること。
- (3) 37度5分以上の熱がある場合はリハーサルを休むこと。
- (4) 身体の不調を感じた場合は、必ずリハーサルを休むこと。
- (5) マスク、及び自分が使用するものは各自持参すること。
 - ・特に、譜面台、筆記用具、スコアなど。
- (6) 各リハーサル会場の使用規定を最優先として遵守すること。
 - ・人員のレイアウト配置ルール
 - ・ロビーなどの使用規定
 - ・飲食について
 - ・事後の片付け、消毒など
- (7) 3密を避けること。
 - ・会話時にはマスクを着用する。
 - ・会話時のソーシャルディスタンスを意識する。
 - ・3人以上で会話することを、出来るだけ避ける。
 - ・飲食は必ず一人で、二人以上ではしない。会話は飲食を終えたあとで。
- (8) 新型コロナウイルス接触確認アプリ（略称：COCOA）の導入を推奨します。
※COCOAは、厚生労働省が提供するスマートフォン向け COVID-19 アプリ。
- (9) 休みを取るなどの連絡は、インスペクター又はエキストラ窓口などへ行う。

II. リハーサル編

【リハーサル開始前に準備すること】

1. 出演者の心得と実施事項

- (1) マスクの着用。
- (2) 会場入口で、検温を受け、手指の消毒をおこなう。
- (3) 楽器の運搬、セッティングなどを行った時には即時、手洗い、手指消毒をする

2. 団の実施事項

- (1) 会場セッティングの手順と時間、リハーサルスケジュールについて配慮する。
 - ・セッティング要員の配置
 - ・換気休憩の徹底
- (2) 個別リハーサル参加者名簿を用意する。
- (3) 非接触式検温器具、アルコール消毒液、吸水パッド、ビニール袋を用意する。
検温要員を配置する。
- (4) リハーサル会場の利用規程、使用制限事項の確認と各種調整に配慮する。
- (5) 楽器配置の間隔など、基本ルールを設定する。
- (6) 各リハーサル会場の利用規程と基本ルールを考え併せ配置図を作成配置する。
 - ・手袋、間隔調整用定規の用意

- ・配置作業者の確定とローテーション
 - ・椅子、机などの事前消毒の確認
- (7) 打楽器は、複数奏者間での共有の必要が生じないように手配をする。

【リハーサル中、休憩中に注意すること】

1. 出演者の心得

- (1) トレーナー、指揮者は飛沫防止対策用マスクを着用する。
※ニッポンカから ex.東京混声合唱団製作歌唱用マスクなどを支給する。
- (2) 管楽器奏者以外は、マスクを着用する。
※弦楽器奏者は、マスクを着用することで奏者間の距離を出来るだけ縮める。
- (3) 管楽器奏者は、以下を遵守する。
 - ・各自、吸水パッドを床に置いて、“蒸留水”を受ける。
 - ・吸水パッドは、終了後、各自持帰り始末する。
 - ・吸水パッド&始末用ビニール袋は、団が支給する。
 - ・(終了後)会場床の清掃に留意する。
 - ・マウスピースのみ、リードのみでの音出しはしない。
- (4) 打楽器奏者は、楽器や撥について他人との共有を避ける。

2. 団の実施事項

- (1) 換気休憩ルールに従って、リハーサルのコマ時間と換気時間を設定する。
例：5分換気／30分音出し または 7分換気／40分音出し
- (2) 換気設備、ドア、窓の開閉、サーキュレーター設置など換気環境を確認する。
- (3) 出演者のリハーサル出欠席を確実に記録する。
- (4) 資料の手による配付を避ける。

【リハーサル終了時に注意すること】

1. 出演者の心得

- (1) マスクの着用
- (2) 無駄な会話をせず、ソーシャルディスタンスを確保しつつ速やかに退出する。

2. 団の実施事項

- (1) 会場の必要に応じて、使用した椅子、机など備品の消毒を行う。
- (2) 楽器搬出の手順と要員を決めておく。(時間を分割する、人員を分ける)
- (3) 検温器、消毒液の撤収をする。

【リハーサル終了後、次回リハーサルまでの期間の対処】

1. 出演者の心得

- (1) 自分の健康管理に配慮する。
- (2) 自分や家族に感染の事実、或いは可能性がある場合は速やかに団へ連絡する。

2. 団の実施事項

- (1) リハーサル時の対策実施について検証して、次回リハーサルの対策に反映する。
- (2) 諸情報の的確な把握に努める。

【感染リスク管理の考え方について】

- ・出席名簿は、演奏会終了後1カ月間保管する
- ・感染者が発生した場合の考え方と対応策を別途定める

Ⅲ. 演奏会編

別途、2021年1月の状況、各機関からのガイドラインに照らし合わせて、詳細を定める予定です。

今後に向けて

演奏活動再開の切っ掛けとなる実証的な裏付けを提供したのは、下記のふたつの検証実験でした。

- (1) 当該指針の参考資料として挙げた、東京都交響楽団によって東京文化会館大ホールの舞台上で実施された検証実験とレポートの発表、及びその後の楽器編成規模を段階的に拡張しながら実施されつつある演奏活動。
- (2) クラシック音楽公演運営推進協議会が主導して、長野県茅野市にある高纯净度実験室（クリーンルーム）で行った、飛沫感染リスク検証実験とレポートの発表。

更に、兵庫県立芸術文化センターは、演奏会場を提供する立場から舞台上と客席に於ける感染リスクの検証実験と考察を行い、具体的な対策を施した実証的演奏会を実施しました。

上記の検証の結果は、以下に集約されます。

- (1) 日常の健康確保が第一であり、演奏活動再開対策の基盤となる。
- (2) 三密を避けること。
- (3) 会場内に於ける換気機能、換気の確保が重要であること。
- (4) 奏者間の距離は、従来の演奏活動時と同様の距離で問題がないこと。
※慎重を期した、詳細な対応は別途定める必要がある。
※舞台を見ている聴衆の不安感を喚起させないようにする工夫も大切である。
- (5) 聴衆、ホールスタッフなどへの対策は、別途定める必要がある。

「オーケストラ・ニッポニカ 第37回演奏会実施に向けた指針」は、これらを踏まえた論議の上で作成されました。指針の内容については、誠意を持って着実に実施し、演奏会を実現したい所存です。

以上